山陰中央新報　2012年（平成

「美味しんぼ」舞台は島根

人気マンガ 来月新シリーズ PR効果期待

マンガ雑誌「週刊ビッグコミックスピリッツ」（小学館）に連載中の人気グルメマンガ「美味しんぼ」（原作・雁屋哲氏、作画・花咲アキラ氏）で、島根県内の多様な食文化を取り上げたシリーズが、4月2日発売号から始まる。県内12市町の特有の食材や生産法を取材し、ストーリーを展開。10回程度続く予定で、「島根の食」のPR効果が期待される。

「美味しんぼ」は、主人公の新聞記者・山岡士郎と、父親で美食家の海原雄山が料理を題材に対決する姿を通し、食の魅力、大切さを訴える物語。小学館（東京都）によると、単行本は現在、108巻まで発刊しており、文庫を含む累計発行部数は1億3千万部に上る。

添加物や環境破壊に警鐘を鳴らすなど、現代社会への問題提起も多く、シジミの絶滅につながるとし、宍道湖の淡水化に疑問を投げ掛けたこともある。

「島根編」は全国各地の特有の食文化に光を当てる企画の一環で、日本の風土の原点が島根にあるとの視点で展開する。雁屋氏とスタッフが一昨年と昨年、松江や出雲、浜田、海士など12市町を実際に訪問。出雲そばやノドグロ、サザエなどの食材について、生産者や漁師、地元婦人部から生産方法や調理法を取材した。雁屋氏は、隠岐でアメフラシを料理に使うことに驚いていたという。

同行した県農林水産総務課の川津章弘企画幹は「県民も知らない食材が取り上げられ、豊かな食文化が広く知られるきっかけになる。楽しみにしたい」と話している。

単行本では、8月下旬以降に発刊される109巻に収録予定。

「美味しんぼ」の島根編のスタートを予告する誌面。背景には、宍道湖の嫁ケ島と、大田市に伝わる稲はでのヨズクハデを描いた―島根県提供